キラリ十和田人 とわだひと
— 第41回 —

主役は花。花がもてなす自慢の街道

十和田ガーデン花街道

MEMO

『十和田ガーデナーズ』を母体に、日本の道百選の官庁街通りを日本一の花街道に育てることを目標に平成25年４月に設立したボランティア団体。会員11人。『緑と花のまちづくり推進市民懇談会』との協働で、官庁街通りの花壇を一年草から宿根草（しゅっこんそう）へ切り替え。以来『元気な十和田市づくり市民活動支援事業』を活用し、花壇のメンテナンス、市民対象のワークショップなどを行っている。

毎朝、官庁街通りの花壇の手入れをしている人がいます。十和田ガーデン花街道の皆さんです。

今までサルビアやパンジーなどの一年草が植えられていた官庁街通りの花壇には今、冬に枯れても春に再び発芽する宿根草が約２５０種類・４千株植えられています。

全国的にも珍しいという、行政と市民の協働型ボランティアによる宿根草の公共ストリートガーデン。

代表の小嶋敏子さんは「宿根草は一年草より経費が安く、四季折々の豊かな表情を見せてくれます。冬に地上部が枯れても、じっと春を待ち、土がふっくら盛り上がって芽を出す姿はとても愛おしく感じます」と宿根草の魅力を語ります。

宿根草は細やかな手入れが必要となりますが、苦にもせず、日々、花と向き合うその姿には花への大きな愛情とまちづくりへの熱意を感じます。

６月には、三本木農業高校の生徒が取り組んでいる『命の花プロジェクト』と共同で、官庁街通りに花の苗を補植する事業を行いました。殺処分された犬や猫の細かく砕かれた骨や、馬ふんを熟成した肥料などが含まれた土から美しく咲く花。官庁街通りの草花は、人間や動物、植物に共通する本物の『命の循環』を、私たちに教えてくれます。

「この花壇の宿根草は、この土地の風土にあったもので、なじみのある草花が多いのも魅力です。２年前に行われた『北海道・東北Ｂ・１グランプリ』で、ある出展団体に『十和田のどんなところが素晴らしいですか』と尋ねたら『花壇が素晴らしい』という答えが返ってきました。もう、うれしくて。普段、作業をしていても、市民の皆さんから声を掛けていただき、とても励みとなります。会員は60代以上がほとんどですが、活動に生きがいを感じて、今や花との生活はライフワークとなっています」と話す小嶋代表。

今後の目標は、花の種類をもっと増やして継続していくこと。

10月３・４日に行われる『Ｂ・１グランプリin十和田』では、色とりどりの花々が来場者をもてなし、官庁街通りに笑顔の花を咲かせることでしょう。